



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 株式会社桃谷順天館 岡山工場 (B)

## — 2013 年～ 2018 年の改善活動の歩み —

5

2013 年は、株式会社桃谷順天館岡山工場が改善活動を始めてからちょうど 10 年目を迎える年であった。これまでの進め方の改善活動が一巡し、次の方向性を模索しながらのスタートをした年であった。

10

### 2013 年～ 2016 年の改善活動への取り組み

2013 年からは生産本部 5 ヵ年計画がスタートし、年間 8 千万円のコストダウン計画の実施が求められていた。生産本部には岡山工場と購買部が属している。この生産本部 5 ヵ年計画の背景や社内での捉え方について、横川氏は次のように話す。

15

「ここまでの数年はグループ全体の業績が上向きで、生産本部は生産量の拡大対応中心に動いてきましたが、拡大対応をする中でもう一度コストダウンに目を向けてムダをなくすことを強力に進めていくことを目的として、生産本部では初めて 5 ヵ年計画を策定しました。工場内の改善の大きな部分はほぼ一巡する中で、岡山工場と購買部の間の連携した情報のやり取りでのコストダウンなど、コストダウン方法の幅を広げるために計画が作られました。また、2010 年に上海に販売会社も設立されるなど、製品の中国販売が本格的に開始され、2012 年には中国向け製品の製造を行う製造工場を新たに設立すべきかどうかの検討もされていました。そのような状況から、5 ヵ年計画における年間コストダウン目標は必達目標と工場内では考えられていました。」

20

25

この時期の活動は大きく次の 3 つに区分される。

本ケースは、標記企業の全面的な協力を得て、東京工科大学コンピュータサイエンス学部専任講師の山口 淳 (D19期, M28期)、株式会社桃谷順天館専務 服部 学 (E1期)、同購買部 横川正昌 (E5期)、慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授の河野宏和が作成した。このケースは、クラス討議で教育目的に用いるためのものであり、経営の良否あるいは関係者の判断の適否を示唆するものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで (〒 223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444, e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法 (電子的、機械的、写真複製、録音・録画、その他種類を問わない) による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/> から。

30

Copyright © 山口 淳、服部 学、横川正昌、河野宏和 (2022 年 8 月作成)